

運転資金

う
ん
て
ん
し
き
ん

一般的に「運転資金」とは、企業が経営を続けるために必要な資金のことです。物を仕入れて掛け（後払い）で販売する場合は、掛け代金を回収して初めてお金が増えます。物の仕入にはお金が必要なので、通常、 $\text{運転資金} = \text{棚卸資産} + \text{売掛金} - \text{買掛金}$ という計算になります。

たとえば、棚卸資産200万円、売掛金300万円、買掛金100万円であれば、 $200\text{万円} + 300\text{万円} - 100\text{万円} = 400\text{万円}$ がないと、資金が回らない計算です。

棚卸資産回転期間とは

棚卸資産が仕入の何日分（何

か月分）あるかを見る数値を「棚卸資産回転期間」といいます。棚卸資産残高を仕入金額で割って求めます。

棚卸資産回転期間は、棚卸資産がどれだけ効率的に収益に結びついているかを見る指標です。回転期間が短いほうが効率的に収益を上げていることになるので、運転資金も少なくて済みます。

複数の商品を扱っている会社では、売れ筋の商品は棚卸資産回転期間がよく（短く）在庫も少なめですが、一方で、棚卸資産回転期間が長く、ずっと売れ残っている商品もあることがあります。

このような商品があると、棚卸資産回転率（棚卸資産の運用効率）が悪くなります。

売掛金回転期間とは

売掛金が売上の何日分（何か月分）あるかを見るのが「売掛金回転期間」です。売掛金回収の速さを見る指標で、売掛金残高を売上金額で割って求めます。

過去の実績よりも回転期間が長いときは、遅延している回収がないかを確認する必要があります。

また、客先別にエイジングリスト（売掛金残高を発生月別に記した表）をつくって管理することもあります。

担当者なら知っておきたい

第11回

「経理用語」

(株)CFO代表
税理士・
米国公認会計士
高橋 和徳

会計

「会計」には、大きく分けて、財務会計と管理会計の2つがあります。

財務会計とは

会社法ではすべての会社に対し、貸借対照表等の計算書類の作成を義務付けています。さらに金融商品取引法の適用を受ける大規模な会社は、有価証券報告書等を作成する義務があります。

これらの書類は、投資家や債権者、税務署等に対し、会社の財務状況や経営状況を報告するためのものです。

このように社外の利害関係者へ提供することを目的に行なわ

れる会計を「財務会計」といいます。

財務会計は、法令に定められたルールに基づいて行ないます。株主や債権者は、財務会計の基準で作成した決算書等を見ることで、出資した会社が目論見どおり利益を上げているか、貸し付けたお金が問題なく返済されそうかを確認することができます。

法令に定められた制度に基づくことから、「制度会計」と呼ばれることもあります。

管理会計とは

「管理会計」は、経営の意思決定や業績測定といった経営管

理に役立てることを目的とした会計です。予算管理や原価管理、部門別や商品別の損益計算なども管理会計に含まれます。

財務会計と違って管理会計は、それぞれの会社が独自にルールを決めて行なうことができます。

実務的には、財務会計と管理会計を分けて行なうのではなく、取引を帳簿などに記録するときに管理会計に使うデータも記録することにより、1つのデータを財務会計と管理会計の両方に活用することができます。

経理部門には、それぞれの会計の目的にあった対応が求められます。

